

授業展開案 高等学校国語「国語総合」

1 テーマ

「水の東西」

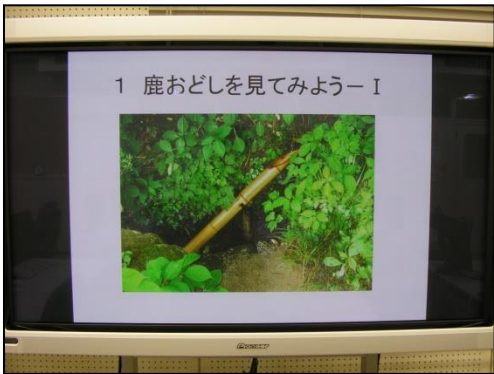
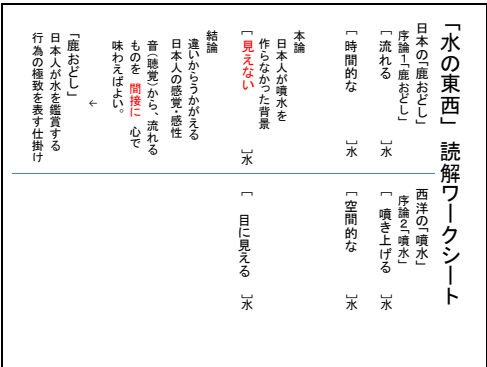
2 I C T 利活用のねらい

現代の日常生活の中では、日本の伝統文化である「鹿おどし」になじみがない。そこで、教科書掲載の写真以外にも、特徴的な日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」を表示して視覚に訴えることで生徒の理解を深める。また、「水」の表し方や鑑賞法の相違から、日本人の感性の特徴を探る。

3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

- ①機器：電子黒板
- ②教材：「水の東西」(Microsoft PowerPoint)

4 I C T 利活用の場面

学習内容	I C T 利活用の場面
<p>「鹿おどし」について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鹿おどし」とは ・「鹿おどし」の動き ・「鹿おどし」の特徴 <p>「噴水」について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「噴水」の特徴 ・日本の噴水と西洋の噴水 	<p>①説明の補助：電子黒板に「鹿おどし」と「噴水」の画像を表示する。</p> 
<p>日本文化と日本人が水を鑑賞する行為について考える。</p>	<p>②説明の補助：日本文化と日本人が水を鑑賞する行為について考えさせる。</p> 

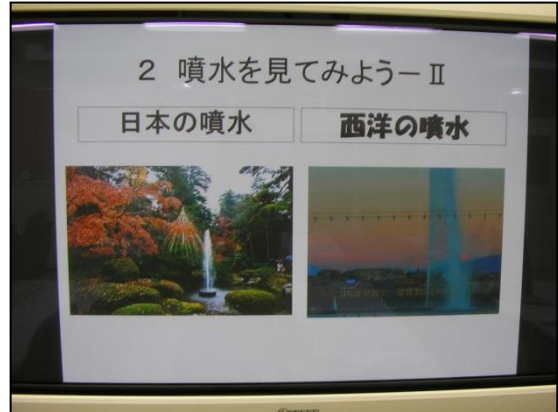
5 ICT利活用のポイント

①説明の補助

大半の生徒は、「鹿おどし」についての知識をあまりもたないと考えられるので、いくつかの画像を見せて、イメージをつかませる。



また、日本と西洋の噴水の相違も確認させる。



②説明の補助

日本と西洋の文化や感性の相違について、対比構造を明確にしながら確認させる。

「水の東西」 読解ワークシート	
日本の「鹿おどし」 序論「鹿おどし」	西洋の「噴水」 序論「噴水」
「流れる」	「噴き上げる」
「時間的な」	「空間的な」
本論 日本人が噴水を 作らなかった背景 「見えない」	「目に見える」
結論 違いからうかがえる 日本人の感覚・感性 音(聴覚)から、流れる ものを「間接に」心で 味わえばよい。	
「鹿おどし」 日本人が水を鑑賞する 行為の極致を表す仕掛け	